

平成27年度  
燕市教育行政評価結果報告書



燕市教育委員会



# 目 次

## I. はじめに

1. 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 教育行政評価委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 点検・評価の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

## II. 教育委員会の事業一覧

1. 平成27年度の教育委員会の主要事業一覧・・・・・・・・・・ 3

## III 点検・評価の結果（平成27年度評価対象事業）

1. 「Jack & Betty プロジェクト」・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
2. 「教職員用 PC・校務支援システム整備」・・・・・・・・・・ 16
3. 「ICT教育推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
4. 「学校図書館充実事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
5. 「Good Job つばめ推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
6. 「スクールソーシャルワーカー派遣事業」・・・・・・・・・・ 21
7. 「つばめキッズファーム事業」・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
8. 「市立児童クラブ延長保育及び利用対象学年拡充事業」・・・・ 23
9. 「燕市子育て総合支援センター「すくすく」運営事業」・・・・ 24
10. 「縁結びサークル支援事業」・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
11. 「家庭教育推進事業  
    【生涯学習人材バンク制度再構築事業 対象事業】」・・・・ 26
12. 「東京五輪キャンプ地誘致事業」・・・・・・・・・・・・ 27

## IV 教育行政評価結果報告書作成にあたって・・・・・・・・・・・・ 28

## I はじめに

### 1. 点検・評価の目的

燕市教育委員会では、市民に信頼される公正で透明、簡素で効率的な教育行政の実現を図るため、地方教育行政法第26条の規定に基づき、毎年、主要な施策及び事務事業の取組状況について点検評価を行い、課題を明らかにし、今後の方向性を検討しています。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 【5つの施策】

- ① 燕らしい特色のある教育の推進
- ② 教育環境の向上
- ③ 子育て支援の充実
- ④ 生涯学習・文化活動の充実
- ⑤ スポーツを通じた健康づくり活動の推進

## 2. 教育行政評価委員

(敬称略)

氏名	住所	職業	備考
委員長 赤坂宗道	燕市新堀 2137	僧侶	元県立高校校長
副委員長 藤沢達博	燕市小池 5460	会社役員	元燕市公平委員
委員 濱田隆之	燕市富永 59	会社員	燕・弥彦 PTA 連絡協議会顧問

## 3. 点検・評価の実施状況

全ての予算事業とその上位目標である施策について調書を作成し、見直しや改善に向けて、自己評価を行い、平成28年度に向けての取組状況を示し、その中から12事業を評価委員より選定いただき、評価を行っていただきました。

開催日	出席者	会議内容
平成28年 1月28日(木)	委員3名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、子育て支援課長、社会教育課長及び事務局職員6名	・主要事業及び評価説明、委員からの点検評価事業の選定作業
平成28年 2月9日(火)	委員3名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長及び事務局職員7名	・事業評価作業
平成28年 2月23日(火)	委員3名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、子育て支援課長、社会教育課長及び事務局職員5名	・事業評価作業
平成28年 3月22日(火)	委員3名、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、子育て支援課長、社会教育課長及び事務局職員7名	・報告書取りまとめ

## Ⅱ. 教育委員会の事業一覧表

### 1. 平成28年度に実施する教育委員会の主要事業一覧

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
学校教育課	1	Jack & Betty プロジェクト	<p>幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校の一貫した英語教育により、海外での活躍や外国との交流を推進することにより、燕市の将来の発展に貢献できる人材を育成する。</p> <p>また、英語教育のための教員研修の場として、実践中心の研修への継続的な参加を促進し、資質の向上を図る。</p> <p>中学校区での小中連携を推進して、燕市の特色ある英語教育の定着を図る。</p> <p>Jack&amp;Betty 教室を開催し、希望者を対象に、土曜午後等を活用し、英語の力をさらに伸ばす機会を充実させる。</p>
	2	教職員用 PC・校務支援システム整備	<p>セキュリティをしっかりとったうえで、教職員の先生方が使いやすい、教委と学校間の連絡を円滑化させ、連携強化を図る。</p> <p>あわせて校務の効率化や情報共有の容易さにより教職員の多忙化の解消につなげ、児童・生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図る。</p>
	3	地域に根ざす学校応援団事業	<p>学校の様々な活動を地域のボランティアが支援することで、教員が子どもと向き合う時間を拡充するとともに、子どもが地域の大人とふれあうことにより「生きる力」の育成に繋げる。</p>
	4	ICT教育推進事業	<p>子どもたちの学習意欲を引き出し、わかりやすい授業を展開するため、ICT 教育推進協議会の提言に基づき、プロジェクトもしくはデジタルテレビ（モニターとして）、書画カメラ、パソコンを整備する。また、LAN環境が整備されていない学校について、無線LANの整備を行う。</p>
	5	燕ジュニア検定事業	<p>各小学校で社会科や総合的な学習の時間、生活科などの学習資料として、また燕長善タイムの教材として、ジュニア検定問題集の一層の活用を推進するとともに、年1回、検定を実施する。</p>
	6	姉妹都市子ども交流事業	<p>近年、国際化が進む中で国際理解や国際交流の必要性が高くなってきている。そのため、姉妹都市との市民間の人的、文化的相互交流により、お互いの地域の歴史や特色を学んだり親善を深めたりすることで、ふるさとへの愛着や誇りをもつとともに、コミュニケーション能力を養い、リーダーとして未来の燕市を担う人材を育成する。</p>

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
学校教育課	7	長善館学習塾事業	かつての長善館の精神を踏まえ、未来の燕市を担う子どもたちに様々な講師から話を聞き、勉強し、様々な体験活動を行うことを通して、思考力や創造力、コミュニケーション能力を身につけることによりリーダーとしての資質を養う。
	8	笑顔で入学支援事業	就学時健康診断の機会を捉え、保護者の入学に対する不安を解消し、小学校入学を円滑にするため、保護者への講演会を開催するとともに、「燕市の学校教育のようす」など、教育委員会の取組を説明する。
	9	「燕キャプテンミーティング」事業	講師の話などから、部活動が体力面だけでなく、コミュニケーション能力や知力も鍛えるものであること、その中で人間形成されていくことを理解させ、部活動の意義やキャプテンの役割について学習する。
	10	学校図書館充実事業	学校図書館司書業務嘱託員の配置により各学校図書館の運営をサポートする。また、全校で導入した学校図書館管理システムを活用して適正な蔵書管理や児童生徒の読書傾向を把握した効果的な読書指導に努めていくとともに、新刊図書を購入し、蔵書の充実を図る。これにより子どもたちの読書の機会が増え、児童生徒の心を耕しながら、読解力の向上を目指す。
	11	学校・地域連携促進事業	学校と地域との連携を今以上に深め「学校応援団事業」などの充実を図るため、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育む体制づくりを目指す。
	12	【新規】 Good Job つばめ推進事業	家庭や地域、産業界と連携して中学校の職場体験活動の充実を図り、キャリア教育を推進することで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来を切り拓き自立して生きていく力を育成する。 支援組織の設置、学校・事業所等の負担を考慮し、職場体験活動日数を段階的に拡大する。平成 28 年度は3日間。平成 29 年度以降は各中学校で実施学年や時期・方法等を工夫し、連続または分割で5日間実施する。
	13	【新規】 スクールソーシャルワーカー派遣事業	不登校をはじめとする問題行動の解決を目指し、教職員が協働して対応する学校体制をより強固なものにするために、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒、保護者、校長及び教職員のつなぎ役を担うことによって、不登校児童生徒数の減少を図る。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
学校教育課	14	【新規】 つばめキッズファーム 事業	各学校が目指したい農業体験授業を支援することで、子どもたちが収穫の喜びを体験し、子どもたちを取り巻く農業や食の環境を学ぶとともに、自分の住んでいる地域を知ることによって、キャリア教育の更なる拡充を図る。
	15	教育指導費(標準学力検査等の実施)	学力の実態を把握し、改善に向けた基礎資料を得るため、NRT(全国標準学力検査＝相対評価法による学力検査)と年2回のQ-U検査(児童生徒の学力満足度調査)を行う。 この2つの検査結果を分析し、授業改善を図ることで市内児童生徒の「全国学力・学習状況調査」の正答率を県及び全国平均以上にすることを目的とする。
	16	学習支援充実事業	小・中学校に学習支援員を配置し、ICT機器を用いた授業での学習支援をはじめ、通常学級に在籍する個別の支援が必要な児童生徒に対する学習支援を行う。
	17	別室登校児童生徒学習支援員配置事業	学習や、人間関係に対する不安等から、登校はできるが教室に入れず、別室に行く生徒に対して、学習を保障し「学級」への復帰を促す。
	18	小中学校教職員研修事業	平成25年度に整備した研修関係事業を体系化し、研修内容を充実させ、教職員の資質向上を図る。
	19	新潟大学教育学部との パートナーシップ事業	教育学部の教授(准教授)による最新の学術理論にもとづいた授業実践を市内の小中学校で展開する(平成24年度よりパイロット校で実施)。 市内各校へ研修内容を広めるために、小学校国語2校、中学校は国語担当者会議の中で各6回(合計18回)実施する。 中学校英語は、英語担当者会議5回と授業参観19回の合計24回実施する。平成28年度は、小学校外国語活動の授業参観も4回実施する。
	20	中学校学力向上対策プロジェクト	平成25年度より学力向上対策プロジェクトとして実施し、平成27年度は中学校国語・数学・英語に拡充して実施するとともに各学校の担当者による会議を開催し、学力向上のための取組を推進しました。 平成28年度は、平成27年度の成果をもとに、新潟大学とのパートナーシップ事業とも連携を図りながら、学力向上を図ります。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
学校教育課	21	子どもを育む推進事業	「いじめ見逃しゼロ 県民運動」を受け、各学校での取組みとともに、市内中学校区単位での「絆づくり集会」を通して、いじめ根絶に対する意識の高揚を図り、学校・家庭・地域での絆づくりを推進し、いじめの未然防止につながる社会性（自己肯定感・人間関係づくり能力等）の育成を図る。
	22	科学教育推進事業	燕・弥彦科学教育センターや長岡技術科学大学と連携し、理数教育を中心とした研修体制を充実・強化することで児童・生徒、教師や市民の科学に対する意識向上を図る。
	23	校外学習推進事業 (小学校費)	児童が生活地域を総合的に広く深く理解するとともに、地域の歴史、産業、文化財、地形等、児童の生活条件を形作っている諸要素を、効果的に理解するために小学校が実施する校外学習等が円滑に行われるよう支援する。
	24	教育振興扶助費 (小学校費)	経済的な理由により就学困難な小学校の児童の保護者及び学校教育法施行令第22条の3の障がいの程度に該当する児童及び特別支援学級に在籍する児童の保護者に対し、学用品費等の学校で必要な費用の援助を行うことにより、経済的な負担を軽減させ、児童が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、小学校でかかる費用の一部を援助することにより、保護者が児童の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。
	25	校外学習推進事業 (中学校費)	授業の一環として実地で見学・体験する校外活動の時間が、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるうえで重要な役割を果たすことから、中学校が実施する校外学習を支援する。
	26	学校施設雨漏り修繕工事	各小学校の校舎及び屋内運動場の雨漏り個所を修繕し施設の長寿命化を図る。
	27	小中川小学校渡廊下改築事業	北側校舎特別教室棟から屋内運動場へ通じる唯一の通路であることから、改築により安心安全な学習環境を整える。また、避難所となる屋内運動場付近に新たに防災備蓄庫を設置し、災害時の利便性向上を図るため、渡廊下改築事業に合わせ備蓄庫を設置する。 平成27年度 実施設計 平成28年度 改築工事

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
学校教育課	28	【新規】 吉田北小学校大規模改造事業	昭和 57 年建設、新耐震基準の建物で耐震補強の必要はないが、築 33 年を経過し、外壁からの雨漏り、照明器具の劣化及びトイレ環境悪化等が急激に進み、大規模な改造（老朽）工事が必要となっている。大規模改造による安心安全な学習環境の早期確立を図る。 平成 28 年度 実施設計 平成 29 年度 大規模改造工事
	29	教育振興扶助費 (中学校費)	経済的な理由により就学困難な中学校の生徒の保護者及び学校教育法施行令第 22 条の 3 の障がいの程度に該当する生徒及び特別支援学級に在籍する生徒の保護者に対し、学用品費等の学校で必要な費用の援助を行うことにより、経済的な負担を軽減させ、生徒が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、中学校でかかる費用の一部を援助することにより、保護者が生徒の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。
	30	スポーツエキスパート 活用事業	運動部活動に熱心に取り組み、競技力の向上を目指している中学校に優秀な外部指導者（アドバイザー）を派遣し、運動部活動の振興と地域社会の連携を促進することを目的とする。あわせて教職員の負担軽減も図る。
	31	小池中学校特別教室棟 改築事業	施設の改築及び大規模改装により安心安全な学習環境を整備する。平成 28 年度は、不要となった旧特別教室棟及び付属渡廊下の解体を行う。 ・旧特別教室棟 昭和 37 年建築 鉄骨コンクリート造 2 階建て 530 m <sup>2</sup> 〈旧耐震 Is 値 0.72〉 ・渡廊下（倉庫） 昭和 46 年建築 鉄骨ブロック造 平屋建て 26 m <sup>2</sup> 渡廊下 昭和 59 年建築 鉄骨造 平屋建て 41 m <sup>2</sup>
	32	学校給食運営費(学校給 食用食器更新)	経年劣化により衛生的に問題のある食器を入れ替え、子どもたちの衛生的で快適な給食環境を整える。また、購入に当たっては、市内の事業者が製造したものを購入する。
	33	給食センター管理運営 費(燕市西部学校給食セ ンター業務委託)	燕市西部学校給食センターの調理配送等業務を平成 27 年 4 月から平成 30 年 3 月まで民間事業者に委託する。
	34	東部学校給食センター 建設事業	学校給食法に定められる衛生管理基準をクリアし、アレルギー食に対応し、安全安心な学校給食を提供できる給食施設を建設する。平成 28 年度から平成 29 年度までの継続事業とする。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
学校教育課	35	「燕長善タイム」実施事業	小学校では、児童の集中力や学習意欲を高め、学校における生活リズムを培うとともに、中学校では、生徒の家庭学習への取組を促す。
子育て支援課	36	市立児童クラブ延長保育及び利用対象学年拡充事業	平成 27 年 6 月、児童クラブを利用している保護者に対して児童クラブの利用に関するアンケートを実施し、利用ニーズを把握。 アンケート結果を基に、要望が多かった受け入れ児童の対象学年と開設時間について平成 28 年度から拡充する。 ・対象学年の拡充 小学校 4 年生までを小学校 6 年生へ拡大する。 ・開設時間の延長 (平常時) 放課後～18 時 30 分を放課後から 19 時へ (学校休業時) 8 時 00 分～18 時 30 分を 7 時 30 分～19 時へ
	37	(仮称)燕西児童クラブ改修事業	閉園した燕西幼稚園の園舎を改修し、秋葉町児童クラブを移転する。県の補助金と合併特例債を活用し、平成 27 年度に事前協議、平成 28 年度に改修工事を行い、平成 29 年度から児童クラブを移設する。
	38	子育て支援金支給事業	次代を担う子どもたちのすこやかな成長を願うとともに、子育て家庭を支援し、魅力ある明るく住みよいまちづくりに寄与することを目的として、平成 18 年 4 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日以前に出生した第 3 子以降の児童に「誕生祝い金」を支給した(申請受付は平成 24 年 3 月 31 日で終了)。 また、すでに支給が決定になっている人には、小学校、中学校、高等学校入学時に「子育て支援金」を支給する。
	39	児童クラブ運営費補助金	県の「放課後児童健全育成事業費等補助金交付要綱」で規定する補助基準額の同額と実施団体が減免した額を補助金として支給することにより、実施団体の児童クラブの運営を円滑に進める。 ※補助基準額は毎年変更あり。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
子育て支援課	40	【拡充】 市立保育園保育室冷暖房設備設置事業	平成 28 年度に、冷暖房設備が未設置となっている保育室（主に 4、5 歳児）に設備を整備するため、必要な設計管理及び設置工事を実施する。また、コスト削減のため、EHP 導入時に受変電設備の新設が不要な場合は EHP の室外機を設置し、必要となる場合に限り GHP 対応とする。
	41	【新規】 大曲八王寺保育園増改築事業	大曲八王寺保育園の外壁等の老朽化が激しく補修工事が必要なことから、園舎の補修工事を実施する。
	42	病児・病後児保育事業	小児科医院に併設した保育施設において病気の児童を一時的に保育することにより、安心して子育てができる環境の整備を行い、子育てする保護者の支援を行う。
	43	障がい児保育事業補助金	私立保育園等における障がい児の保育を推進するため、障がい児を受け入れている私立保育園等に対して保育士の加配に補助を行い、障がい児の処遇の向上を図ることを目的とする。特別児童扶養手当支給児童に対する加配保育士の人件費相当額を、補助金として交付する。 ・対象児童 1 人あたり月額 33,000 円を補助
	44	地域子育て支援講座事業	子育てでの不安や悩みを分かち合うことで、子育ての負担を軽減するとともに、同世代の子どもを持つ親同士のつながり・交流を促進する。 同年代の子を持つ母親向けに NP プログラムの手法により子育て支援講座、初めての赤ちゃんを育てている母親向けに BP プログラムの手法により子育て支援講座を行う。
	45	燕市子育て総合支援センター「すくすく」運営事業	平成 26 年度に旧吉田庁舎を改修し、平成 27 年 5 月に燕市子育て総合支援センター「すくすく」を拠点に、子育て相談支援、情報交換、交流の場の機能のほか、調理室を設置し食育への関心を高めるとともにサークル活動スペースを設け子育て支援団体を育成する。ファミリー・サポート・センターを併設し、利用者の利便性を図る。
	46	子育てつばめメール配信事業	子育てを応援し、市の子育て支援に関する事業や施設など有効に活用してもらうため、相談窓口や支援制度、イベントなど子育てに役立つ情報を登録した保護者の携帯電話にメール配信する。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
社会教育課	47	【拡充】 生涯学習人材バンク制度再構築事業	職業・趣味・生活などで身につけた知識・技術・体験を、地域のさまざまな生涯学習の場で生かしたいという人を対象にした「燕市生涯学習人材バンク」への登録により、市民からの講師派遣要請に応えるシステムを構築する。
	48	縁結びサークル支援事業	未婚者が安心して婚活ができる環境づくりを推進するために、市にコーディネーター1名を配置し、婚活パーティーの計画の立案及び運営を行う。市民が主体となった結婚応援活動をひろげることにより、婚姻率及び出生率の増加につなげ、定住人口の増加を図るとともに活動人口の増加を目指す。 また、コーディネーターによる結婚相談やスキルアップ講座も開催する。
	49	つばめBOOKサポーター事業	読み聞かせボランティアのすそ野を広げるため、絵本作家や児童文学者などによる講演会等を開催するとともに、ボランティア団体の連携やスキルアップを図るため活動見学会や情報交換会を行う。
	50	指定管理者による図書館運営事業	市民の生涯にわたる自主的な学習活動を支える「地域の知の拠点」である図書館の管理運営を指定管理者に委託する。
	51	家庭教育推進事業【生涯学習人材バンク制度再構築事業 対象事業】	「心の燕市8つのチャレンジ」を地域・家庭において、定着・推進するとともに家庭教育全般に対する意識を高めるために開催する家庭教育講座の講師謝礼金の一部を助成する。また、食育を推進するための講座を開催する。
	52	【中央公民館管理運営費】公共施設使用料見直し検討事業(企画財政課共同事業)	公共施設使用料の見直しについて、市民(特に施設利用団体)の納得感が得られるよう、施設利用者・未利用者、社会教育委員、公民館運営審議会委員等の市民で構成する「(仮)社会教育施設使用料見直し検討会」を設置し、公共施設使用料の統一基準案(骨子)を基に、平成29年4月からの使用料徴収について検討する。
	53	市民教養講座事業【生涯学習人材バンク制度再構築事業 対象事業】	18歳以上の市民及び在勤者を対象に自己啓発・相互学習意欲を啓発し、生涯学習の基礎づくりを推進するため、各種講座を開催する。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
社会教育課	54	若者就労支援事業（ひきこもり相談事業）	平成 27 年度から委託している地域若者サポートステーション事業に、ひきこもりを対象とした訪問相談事業を追加し、教育委員会のカウンセラーとともに動くことで支援の幅を広げ、いままで対象とならなかった若者を就労へと繋げる。
	55	ESCO事業	文化会館・中央公民館に導入したESCO事業により、民間事業者の専門的なノウハウを活かした省エネ化の推進による、環境負荷の低減、並びに施設維持管理費の削減を図る。
	56	文化活動支援事業	自主企画公演・展示事業等を行う団体が、自立し継続的に文化活動ができるよう、30万円限度（3回交付を受けたごとに、最低3年間助成金の申請不可）に助成金を交付する。
	57	つばめっ子かるた普及推進事業	ふるさとへの誇りと愛着を育むための郷土学習及び子どもたちの健全育成の一環として、つばめっ子かるた大会の開催等を通じ、かるたの普及を促進する。
	58	長善館史料館活性化事業	入館者の増加を図るため、市内3史料館との協調体制の継続的な推進、事業コーディネーターの設置、館所蔵資料の整理・調査作業の継続実施及び目録刊行物の作成（筑波大学連携事業）、長善館史料館所蔵掛軸の展示会の開催及び長善館友の会の設立などを行う。
	59	埋蔵文化財事業（旧分水学校給食センター改修）	現在旧燕工業高校、吉田旭町倉庫、旧吉田庁舎前車庫に分散保管されている埋蔵文化財資料については、それぞれの保管環境に湿気等の問題があることに加え、保管場所からの撤収が求められていることから、旧分水給食センターを保管庫として必要最小限の改修を行う。 また、保管施設内に展示スペースを設けることで、小規模な展示事業や体験教室の開催など積極的な文化財活用を目指す。
	60	分水良寛史料館活性化事業	入館者の増加を図るため、市内3史料館との協調体制の継続的な推進、広域近隣館との協調体制の構築・推進、事業コーディネーターの設置及び照明設備の改善によるイメージアップ等を図る。
	61	第 11 回燕市美術展覧会開催事業	展覧会の開催を通じ、美術に対する市民の意識啓発を行うとともに美術人口の増加を図る。また、出品図録を増刷し、より多くの市民から美術にふれてもらう。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
社会教育課	62	スポーツ推進事業 業務委託	現在、市直営で実施しているマラソン大会並びにニュースポーツ大会を指定管理者である燕市体育協会及びミズノグループに業務委託することにより、各体育施設における情報発信、円滑な受付業務の実施、スムーズな大会運営などを行い、活動人口の増加に繋げる。
	63	子どもの体力向上サポート事業【拡充】	平成27年度から市内の5つの小学校(分水北、島上、粟生津、大関、松長)において、運動が苦手な子どもでも楽しく、遊び感覚で走る、跳ぶ、投げるなど基本的な動作を自然に身につけられる運動遊びメニューと運動能力測定を組み合わせたプログラムであるヘキサスロン(各種道具を使用)を導入した成果を踏まえ、今年度は、他の小学校で実施し、児童の体力・運動能力の向上を目指す。
	64	東京五輪キャンプ地誘致事業	オリンピック、パラリンピックのスポーツを通じ活動人口の増加を図り、日本一輝いている燕市を世界に配信し燕ブランド確立の一助とするため以下の取り組みを行う。 オリンピック、パラリンピックのキャンプ地(合宿)燕市をPRし誘致するため、 ①アーチェリー練習場整備の実施設計作成 ②キャンプ情報パンフレットの作成(英語版、仏語版、日本語版) ③関係国、関係国競技団体への接触並びにキャンプ地のPR活動 ④市民の関心を高めるための優秀選手及びコーチによる実演会、講習会の開催。
	65	東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流事業	軟式野球に親しむ少年にヤクルト球団を通じて夢や憧れを与え、また、ヤクルト球団に関係する自治体間において、小学生のスポーツの振興と競技力向上、少年の健全育成に寄与することを目的に、少年野球交流事業を宮崎県西都市において開催する。
	66	JCY レディースサッカーフェスティバル開催事業	平成27年度に引き続き、JCY レディースサッカーフェスティバル(日本クラブユースサッカー連盟主催で中高校生を対象にフェスティバル形式で開催)を開催することにより、レベルの高いゲームを間近で見ること、サッカーへの関心を更に高めるとともに、青少年の競技力向上、トップアスリートの育成に繋げる。

課名	No.	事業名	事業の目的及び概要
社会教育課	67	学校開放受付業務委託	現在、社会教育課が直営で対応している市内 20 校の小・中学校の体育施設の受付業務について、受付窓口の一元化による利用者の利便性の向上に加え、公共体育施設と学校体育施設における団体の活動場所確保の包括的な利用調整を進めるため、公共体育施設と同様に受付業務を体育施設の指定管理者に委託する。
	68	中央公民館改修(増築)事業	中央公民館に隣接する燕市勤労青少年ホーム(建築年次:昭和44年度、延べ床面積:1,013.18㎡)は、老朽化の進展や耐震性を有さないことから、当該ホームを取壊し、その跡地に中央公民館機能を充実する施設(876.94㎡)を増築する。
	69	吉田北体育文化センタートイレ等改修事業	利用者から要望のあるトイレの洋式化、老朽化が著しい受変電設備及び屋内消火栓設備の改修により、利便性の高い市民の生涯学習・スポーツ活動の拠点として、また、災害時には地区の安全・安心な避難施設(第1次)とする。
	70	分水公民館雨漏り等改修事業	利用者から要望のあるトイレの洋式化、施設の老朽化の進展にともなう雨漏り及び外壁タイルの剥離に係る改修により、安全・安心な市民の生涯学習活動の拠点として、また、災害時には地区の避難施設(2次)として市民の安全を確保する。
	71	文化会館管理運営費(トイレ改修事業)	近年、他の社会教育施設同様、当該施設も高齢者の利用度が高くなっており、利用者アンケートからもトイレの洋式化の要望が窺えることから、活動人口促進のため、地階の男女トイレの洋式化全更新及び老朽化した1階多目的トイレの更新を行う。

Ⅲ 点検・評価の結果（平成27年度評価対象事業）

平成27年度 教育行政評価報告書

＜燕らしい特色ある教育の推進＞

点検項目	Jack & Betty プロジェクト
27年度達成目標	小中学校の連携による燕市の特色ある英語教育の定着と改善を図る。魅力ある英語授業を進めるとともに、英語能力向上に努め、環境の整備や授業の体制を整える。
目標の達成状況	参加児童生徒の出席率は高く、興味をもつ子どもたちは増えている。
取組の概要	<p>平成25年度からスタートし、小学校5年生から中学校3年生までの5年間の一貫した外国語教育の充実、さらに英語の力を伸ばしたい児童生徒への英語教育強化の推進を図り、グローバルな人材の育成を目指した取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT、JTEの小学校、中学校及び幼稚園・保育園における英語教育充実。合わせて市内小中学校英語科教員研修を実施。</li> <li>・英語力をさらに伸ばす機会の充実として、希望者選抜者を対象とした Jack &amp; Betty 教室による英会話を中心とした教室の開催。</li> <li>・小学校1年生から4年生までを対象とした夏休み英会話教室の実施。</li> <li>・小学校5年生から中学校3年生までの希望者を対象とした英語スピーチコンテスト兼海外派遣選考を行い、毎年12名を親善大使として海外に派遣。</li> </ul>
自己評価	<p>小学校15校に日本人外国語活動指導助手（JTE）5名を派遣していることにより英語に興味をもつ児童が増えている。教室参加者数は減少傾向にあるが、意欲のある子どもたちの参加が多く、参加率は年々向上しています。参加者の募集には市のホームページなどで募集を行い参加者の増加につなげたい。</p> <p>教室では英語検定を3回実施した。プロジェクト参加により小学生の受験をする児童が増えた。</p>
評価委員の評価	<p>参加者数が年々減少しているが、参加率を上げる方法を検討し参</p> <p style="text-align: right;">（次ページに続く）</p>

	<p>加者及び保護者の負担軽減を考慮する必要がある。</p> <p>現在、中学生は吉田中学校、小学生は吉田勤労青少年ホームで教室を行っているが、子どもたちが参加しやすいように、燕地区や分水地区での開催、または、3 地区での同時開催などについても検討していただきたい。</p> <p>英語検定受験については、学校との連携を考慮し、子どもたちから英語に触れる機会を持つことにより興味がある子どもたちを増やす取組が重要であると考えます。</p> <p>この事業の中で教職員の外国語研修の充実を図り指導力向上につなげてほしい。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>Jack &amp; Betty 教室に参加する子どもたちを増やす方策の1つとして、教室開催場所を検討し、子どもたちが通いやすい会場の選定や会場の分散などを今後の検討課題としたい。</p> <p>小学校の外国語活動についてのアンケートでは、「外国語活動の授業は好きですか」「英語を話すことが楽しいですか」という質問について肯定的な回答をした児童の割合が、全国を 10%程度上回っている。これは JTE の派遣による効果が非常に大きく、プロジェクトの成果の表れであると考えている。</p> <p>英検受験などで成功体験を積むことは動機付けの機会となっている。</p> <p>小学校で日本人外国語活動指導助手（JTE）、中学校で外国語指導助手（ALT）を配置し、授業を行う中で先生方の指導力の向上を図りたい。</p>

【所管：学校教育課】

<教育環境の向上>

点検項目	教職員用 PC・校務支援システム整備
27年度達成目標	校務支援システム稼働により効率的な運用を行う。
目標の達成状況	児童生徒名簿の整備、出席簿入力、指導要録、グループウェア機能は全校で稼働することができた。
取組の概要	<p>教職員全員分を配置し、学籍、出欠、成績表等の管理・情報共有することで、学校教職員の多忙解消に取り組む。</p> <p>三条市、弥彦村、燕市3市村で共同システムを導入しコストの低減、メンテナンス費用の低減及び異動教職員の負担低減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のパソコン整備（教員一人1台）</li> <li>・教職員研修会の開催</li> <li>・調査書、通知書等の作成研修会の開催</li> <li>・巡回指導員の派遣</li> </ul>
自己評価	校務支援システム稼働による効率的な運用を行っている学校もあるが、学校間に格差が生じている現状にある。巡回指導員によるきめ細やかなサポート体制により、教職員の多忙化解消をより一層進める必要がある。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三市村で共同導入することによる利点として、この3市村内での教職員の異動した場合、同じシステムを使えることによる負担軽減が可能。また、メンテナンス費用に係る経費の低減にもつながる。</li> <li>・校務支援システム導入により、データの共有等により教職員の多忙解消により、子どもたちとの触れ合いの時間の確保につなげてほしい。</li> <li>・個人情報管理体制を十分に注意していただきたい。特に情報の持ち出しなど教職員への周知の徹底により保護者との信頼関係を構築してほしい。</li> <li>・各学校の利用状況や運用について点検・評価を実施してほしい。また、先生方の自己評価なども取り入れ、より効率的な運用及び改善に努めてほしい。</li> </ul>
今後の方向性	校務支援システムの利活用により教職員の負担軽減を図り、子ども (次ページに続く)

もたちと向き合う時間が増え、より一層寄り添った教育を行う。

校務支援システムの各学校での利用率を確認し、利用率の低い学校については研修会を開催するなど、運用の平準化並びに作業効率の向上を図る。

また、個人情報の取り扱い、個人情報の管理体制には十分注意を行うとともに、システムの効率的運用を進める。

【所管：学校教育課】

<教育環境の向上>

点検項目	ICT 教育推進事業
27年度達成目標	<p>社会のICT化に対応した人材を育成し、質の高い教育の確保とそれに伴う学力向上、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力を身につけ、21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む。</p>
目標の達成状況	<p>燕市ICT教育推進協議会を6回、専門委員会を4回開催し今後の方針を提言書として平成27年12月、教育委員会へ提出した。</p>
取組の概要	<p>燕市ICT教育推進協議会提言書に基づいて、市内小中学校に無線LAN工事を行い、タブレット型パソコンの導入を図る。</p> <p>全小中学校のICT機器状況について調査を行った。</p>
自己評価	<p>平成27年度燕市ICT教育推進協議会及び専門委員会において今後の方針を検討し、提言書がまとまったことによって、今後の方向性を示すことができた。</p>
評価委員の評価	<p>教員がICTを活用した授業が行えるよう、研修体制を充実し、より良い授業ができる環境を作ってほしい。</p> <p>従来の授業がいいのか、ICT機器を使用した授業の方がいいのか教科毎に研究してほしい。</p> <p>使用方法・活用方法によっては、良い効果を上げてくれると期待している。</p> <p>タブレット端末の使用方法及び運用方法をしっかり定める必要がある。</p>
今後の方向性	<p>平成28年度は、タブレット型パソコンや教員用デジタル教科書の活用を全校へ普及させるため、指導主事・ICT支援員・学校が連携をとって研修等を進める。</p> <p>ICT機器を活用した授業を展開することによって、質の高い教育が確保され、児童・生徒は必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力を身につけることができ、社会のICT化に対応した、21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む。</p>

【所管：学校教育課】

<教育環境の向上>

点検項目	学校図書館充実事業
27年度達成目標	平成26年9月より開始した新学校図書館管理システムを全小中学校に導入し、蔵書を登録し管理を行う。
目標の達成状況	全小中学校にシステム導入が完了し蔵書管理等が容易になった。
取組の概要	学校、図書館ボランティア、学校図書館司書業務嘱託員、サポート委託業者と連携し、システムへの蔵書登録や整理を行った。
自己評価	システムを導入したことで現状が把握できるようになり、今後の学校図書館運営に活かしていくことができるようになった。しかしながら、整理したことにより蔵書冊数が学校図書館図書標準を下回る学校が増加した。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書購入予算の確保が必要である。他市町村の状況と比べると燕市の予算が少な過ぎる。計画的に蔵書の充実を図ってほしい。</li> <li>・ 学校図書運営マニュアルを整え、選書を行う際は学校担当者の好みや分野の偏りがないようにすることが必要である。</li> <li>・ 学校司書を充実することが必要である。配置している学校とそうでない学校では取り組み方が違う。</li> </ul>
今後の方向性	<p>蔵書管理を適正に行い、学校図書館図書標準冊数を目指し、計画的に図書を購入していく。またシステムを利用し分野別の蔵書の把握や図書の購入を計画的に行うことにより、児童生徒が利用しやすい魅力ある学校図書館づくりを図る。学校、ボランティア、学校図書館司書業務、サポート委託業者が連携し図書館運営を行う。</p> <p>学校図書運営マニュアル（ガイドライン）を現在作成中であり、今後においては関係者の意見を取り入れながら完成させる。</p>

【所管：学校教育課】

<燕らしい特色ある教育の推進>

点検項目	【新規】Good Job つばめ 推進事業
28年度取組の概要	<p>家庭や地域、産業界と連携して中学校の職場体験活動の充実を図り、キャリア教育を推進することで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、自分の将来を切り拓き自立して生きていく力を育成する。</p> <p>支援組織の設置、学校・事業所等の負担を考慮し、職場体験活動日数を段階的に拡大する。平成28年度から3日間。平成29年度以降は各中学校で実施学年や時期・方法等を工夫し、連続または分割で5日間実施する。</p>
自己評価	<p>中学校3年生対象の全国学力・学習状況調査の質問項目「将来の夢や目標を持っている」に肯定的評価（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」）をした生徒の割合は約70%の状況が続いている。（平成26年度は71.2%、平成27年度は71.5%）</p>
評価委員の評価	<p>地元にある企業のことを知ったり、身近な大人が汗して働く姿に直接触れたりすることは大変価値がある。自己実現の援助となるよう、多くの事業所からの協力を得るようにしていただきたい。</p> <p>身近に存在するプレスや研磨等をはじめ、地場産業へも理解を求め、受入れ事業所の幅を広げていってほしい。</p>
今後の方向性	<p>職場体験活動をより充実したものにするため、実行委員会を年2回開催し、受入れ事業所の開拓と事業の評価を行う。また、各中学校における事前指導をより充実したものにするため、受入れ事業所のリストアップや受入れ人数の調整などの連絡調整業務を委託し、教職員の負担を軽減する。</p>

【所管：学校教育課】

<教育環境の向上>

点検項目	【新規】スクールソーシャルワーカー派遣事業
28年度取組の概要	不登校などの児童生徒の家庭や学校にスクールソーシャルワーカーを派遣し、情報を共有することにより問題解決にあたり、燕市の未来を担う子どもたちを育む体制を整える。専門的な支援技術を持つスクールソーシャルワーカーが家庭訪問などにより得た情報を基に、児童生徒や保護者と学校の間で調整や仲介をすることにより、不登校などの問題行動の解決を促す。
自己評価	不登校をはじめとする問題行動の解決を目指し、教職員が協働して対応する学校体制をより強固なものにするために、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、児童生徒、保護者、校長及び教職員のつなぎ役を担うことによって、不登校児童生徒数の減少を図る。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者や家庭、学校の負担軽減、学級担任が抱え込まないよう専門知識を有する方を含めた体制づくりに努めていただきたい。</li> <li>・社会情勢が変化する中で家族構成も多様化してきている。不登校などの子どもたちへの理解度も社会的に深まってきているので、このような事業をさらに大きな取り組みにしていきたい。家庭だけでなく、地域との関わりの中でスクールソーシャルワーカーが大切である。</li> <li>・不登校やいじめなどのサインを見落とさないように、また先生方へのサポート体制を管理職も含め今後対応願いたい。</li> </ul>
今後の方向性	現在、教職員と適応指導教室の指導員が行っている不登校児童の対応を専門的な支援技術を持った支援員を追加配置し、よりきめ細やかな支援体制を確立することにより、不登校などの問題行動の解決に結びつける。

【所管：学校教育課】

< 燕らしい特色ある教育の推進 >

点検項目	【新規】つばめキッズファーム事業
28年度取組の概要	<p>小学校における農業学習を推進し、子どもたちに農業の楽しさ、厳しさ、感動などを実際に体験する機会を計画する。</p> <p>全小学校における農業関係の取組状況を把握し、農業に親しみを感じ「次世代の担い手」育成のきっかけとなる事業展開を行う。</p>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民、地元農家との交流を通じて「地域の子ども」として育つことで、世代間交流につながる。</li> <li>・ 農作物を育てることの楽しさを知ること、自主性を持ち「自分の好きなこと」に気づける。</li> <li>・ 農業に触れる機会が少ない子どもたちの現状を踏まえ、農業体験活動などにより土との触れ合いや自分で育てた農作物を食べることで、農業の魅力を感じられる。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校で作った作物を食べたり、販売することはキャリア教育、食育の面から進めてもらいたい。</li> <li>・ 今までと同じ農業体験だけではなく、現在実施している農業体験事業の拡充や新規事業を全校で取り組んでほしい。</li> <li>・ 今の子どもたちは素手で土に触れる機会が少ないことから、このような農業体験は子どもたちに良い影響を与えると感じますので是非充実させてほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<p>農業を通じ、地域住民や地元農家との世代間交流を図り、自ら育てた農作物を食べることで食育につなげるとともに、将来の設計に役立てるキャリア教育に結びつける。</p>

【所管：学校教育課】

<子育て支援の充実>

点検項目	市立児童クラブ延長保育及び利用対象学年拡充事業
27年度達成目標	児童クラブを利用している保護者を対象に児童クラブ利用に関するアンケートを実施し、利用者ニーズの把握を行う。
取組の概要	アンケートの結果を踏まえ要望が多かった5年生、6年生の対象児童の受入れ拡充及び開設時間の延長を検討し事業化を進める。 また、他市町村及び民間事業所など状況調査を行い利用料金など検討する。
自己評価	生活環境や社会情勢の変化により、昼間保護者のいない家庭環境の子どもたちの保護者ニーズを把握することにより、安心して子育てできる環境を整備することで働く者の就業継続、支援を推進する。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用料金は公平性を確保し適正に行っていただきたい。</li> <li>・手狭な児童クラブも存在するが、受け入れる体制を整え出来る限り対応をお願いしたい。</li> <li>・是非ともこの事業を発展的に考えていただき、若い人が暮らしやすい・子育てしやすい環境を整えることで燕市は住みやすい場所としていただきたい。</li> <li>・利用者の要望希望を受け入れ施策に取り入れることはとてもいいことである。受入れ定員などから全てを受け入れることは難しいが努力を重ねていただきたい。また、運営も工夫が必要であり、受入れ対象が増えても指導員がどのように接していくか中身の充実も必要になる。</li> <li>・申し込みの利用時間を過ぎた場合の対応について臨機応変な対応を検討いただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	児童クラブを利用する保護者の要望にできる限り近づけることで、子育てしやすい就労環境を整える。利用者の増加が見込めるため、関係機関と調整を図り待機児童が発生しない体制を整える必要がある。

【所管：子育て支援課】

<子育て支援の充実>

点検項目	燕市子育て総合支援センター「すくすく」運営事業
27年度達成目標	子育て家庭への情報提供や各種団体の活動の場の提供など多くの市民から利用いただける施設を目指す。
目標の達成状況	利用者数は毎月1,000人を超え順調に推移している。また、各種事業は計画的に開催することができた。
取組の概要	<p>平成27年5月に開設された施設の機能を十分に活用できる体制を整える。</p> <p>主な利用方法は、育児不安などの解消を図るために交流場所の提供と育児に対する悩みなどの相談、子育てに関する情報の提供や各種講習会の開催、サークル団体やボランティア支援者の活動の場の提供、食育を推進する活動支援。</p>
自己評価	利用状況はある程度の評価をしているが、運営方法など検討課題への取り組みが進んでいない。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の講座が毎月のように開催されているが、食育の推進の取組内容としては目的からそれているように感じるので、事業内容を再度検証いただきたい。</li> <li>・子育て総合支援センター「すくすく」としての役割が不明確な部分があるので、総合支援センターとしての目的を明確にすることが望ましい。</li> <li>・子どもたちや保護者が自由に使用でき交流できる場所の提供に努めてほしい。</li> <li>・子育て総合支援センターの利用時間の拡大は子育て世帯には非常にいい取り組みである。</li> </ul>
今後の方向性	子育て総合支援センターは、他の子育て支援センターで対応できない部分を含め対応できる施設として整備しました。また、他の施設への情報発信・共有・集約や各支援センターの指導ができる支援センターを目指している。サークルや各団体が自主的に企画・運営に参画できる体制を整え施設の有効活用をさらに推進する。

【所管：子育て支援課】

<地域福祉の充実>

点検項目	縁結びサークル支援事業
27年度達成目標	<p>縁結びサークルが開催する婚活パーティーにおけるカップル成立率 40%を目指す。</p> <p>縁結びサークルの活動による成婚数 1 組以上を目指す。</p>
目標の達成状況	<p>カップル成立率 56.9% (達成率 142.3%) 成婚数 0組 (達成率 0%)</p>
取組の概要	<p>婚活パーティー7 回開催、男性向けスキルアップ研修会 3 回開催 (サークル 1 回・市 2 回)、お見合い開催 33 回</p>
自己評価	<p>燕縁の会の成果として、縁結びサークルが開催する婚活パーティーにおけるカップル成立率については、達成率 142.3%と目標値を大きく上回ったことから、今後、成婚率も高まるものと期待する。</p> <p>縁結びサークルの活動による成婚数については、達成率 0%だが近日中に 1 組誕生すると聞いている。</p> <p>※成婚までに至る期間は、人により異なるが、かなり長い時間を要することから、その間の相談等のケアについてもサークルで対応する必要がある。</p> <p>(※目標の達成状況は平成 27 年 12 月末現在)</p>
評価委員の評価	<p>事業がスタートしたばかりであるが、関係団体と連携を図るなどさらに成果を上げて欲しい。</p> <p>コーディネーターの育成方法、人材の確保などの課題を整理し、相談者に適切な対応できる体制を整える必要がある。</p>
今後の方向性	<p>未婚者が安心して婚活ができる環境整備を推進するため、平成 28 年度から市は臨時職員 1 名をコーディネーターとして配置するが、コーディネーターの更なるスキルアップを図る。</p> <p>成婚の実績をPRし、縁結びサークルの利用を促す。</p> <p>人口減少対策の一助とするため、コーディネーターを配置し、婚活支援のさらなる充実を図る。</p>

【所管：社会教育課】

<燕らしい特色のある教育の推進>

点検項目	家庭教育推進事業 (生涯学習人材バンク制度再構築事業 対象事業)
27年度達成目標	子どもたちの豊かな心を育てる活動を、地域・家庭において定着させ推進させる。親子で食の大切さを学び、子どもたちが好ましい食生活を送るための力を育むことで食育を推進させる。
目標の達成状況	家庭教育 講座参加人数： 目標 3,500人 実績 3,939人 講座申請団体： 目標 35団体 実績 32団体 食育 講座(教室)数： 目標 2回 実績 2回
取組の概要	地域・家庭において家庭教育の意識を高めるために開催する家庭教育講座の講師謝礼金の一部を助成する。 家庭教育では、講座謝礼の一部助成しています。幼稚園、保育園、こども園、小中学校のPTAや保護者を対象としている。 食育推進講座の開催では、市内の小学生とその保護者を対象に2回講座を開催する。
自己評価	家庭教育では、申請団体数は今年度目標を下回ったが昨年の実績を上回り、参加人数は今年度目標及び昨年度実績を上回り、家庭教育への関心の高さを窺うことができた。 食育では、昨年度は1回のみで開催であったが、今年度は目標どおり2回開催することができ、食の大切さを伝えることができた。
評価委員の評価	地域自主性(講演内容)を尊重し、単に補助金のみで終わらず報告書等を利用して市内全域で情報共有できるようにしてほしい。 心の燕市8つのチャレンジの普及に結びつくような取り組みを推進し、さらに浸透するよう地域や保護者の要望や意見を取り入れ、この事業を有効に活用し進めていただきたい。
今後の方向性	平成28年度より、助成事業で提出された報告書をまとめ、報告書集として市内各学校等に配布し、啓発を図り事業の浸透を進める。 心の燕市8つのチャレンジの普及を図るため、講座の際に希望制でしつけや家庭教育について講話の時間を設けることに加え関係機関と連携を図りながら事業の推進を図る。

【所管：社会教育課】

<スポーツを通じた健康づくり活動の推進>

点検項目	東京五輪キャンプ地誘致事業
27年度達成目標	燕市を東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地（合宿）として海外にPRし誘致を図る。
目標の達成状況	モンゴル国パラアーチェリー協会関係者が燕市を訪問しアーチェリー関連施設を視察、燕市で事前キャンプを行うことが決定、平成28年度より燕市で合同練習を実施する予定で、平成28年4月中旬に覚書の調停予定。また、国が推進しているホストタウン構想に県ほか4市村とモンゴル国で申請し平成28年1月26日に第一次登録となった。
取組の概要	キャンプ地誘致PRパンフレット（英語版・仏語版）を作成し、市長が3カ国大使館を訪問しPR。その他21カ国の在日大使館宛てにPRパンフレットを郵送し、キャンプ地誘致のPRを実施、平成28年2月15日には県と一緒にメキシコ大使館とモンゴル国大使館の訪問を実施している。
自己評価	パラリンピックのキャンプ地の誘致は決定したが、オリンピックでのキャンプ地誘致となっていないためオリンピックにおいても誘致を目指したい。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞にモンゴルのアーチェリーが決まった記事を見て喜んでいる。</li> <li>・施設整備を含め着々とやっていただきたい。</li> <li>・燕の名前を発信するにはよい機会である。</li> <li>・まだまだマイナーでなじみのない競技なので小学校、中学校、高等学校を含め市民みんながアーチェリーをやってみたいと思うようなPRをお願いしたい。</li> <li>・社会教育のスポーツなので経済効果、海外交流だけでなく地元の小学校、中学校、高等学校を含め子どもたちの体力や心を育てるよい機会にしていきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<p>ホストタウン構想の登録により平成28年度よりモンゴル国パラアーチェリー選手や通訳などとスポーツ交流及び文化交流を行う予定。また、小学校、中学校、高等学校を含め市民に広くアーチェリーをPRし、競技人口の増加を目指す。</p> <p>パラリンピックだけでなくオリンピックについても誘致を目指す。</p>

【所管：社会教育課】

#### IV 教育行政評価結果報告書作成にあたって

平成 27 年度は、燕市の最上位計画である第 2 次燕市総合計画（平成 28 年度から平成 34 年度）や第 2 次燕市学校教育基本計画（平成 28 年度から平成 34 年度）及び第 2 次燕市生涯学習推進計画（平成 28 年度から平成 34 年度）の策定を行いました。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、燕市総合教育会議を設置し「燕市教育大綱」を策定し、これからの教育のあるべき姿を示させていただきました。

教育委員会では、評価委員会からの検討事項を検証し、課題とされる事項については改善を図り、以下のような方向性を大切に今後とも教育施策を推進してまいります。

##### (1) 地域に根ざした教育の推進

これから到来する本格的な人口減少社会やグローバル化など地域社会のつながりや支え合いの低下など、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした大きな社会変化やこれまでの教育施策にかかわる取組状況を踏まえ、本市教育で目指す「生きる力がみなぎる燕の子ども」を実現するためには、これまでの取組を継続・発展させ、家庭・地域と連携しながら「知・徳・体」のバランスを大切に「生きる力」を育成していく必要があります。

##### (2) 安心して産み育てられる子育て支援

安心して子どもを産み育てられる社会を作るための手段のひとつとして、子育て環境の整備、子育て世帯の意向を把握した「仕事と子育てを両立するための支援」が今後の子育て支援施策において重要な課題となっています。

さらに、晩婚化・未婚化が進むことにより、次の世代を担う子どもたちの数も減少し少子化に拍車がかかっています。市民や企業・団体等が連携して男女の出会いを支援するさまざまな取組みが求められています。

##### (3) 市民が主役の健康づくり、生きがいつくり

市民に夢や感動を与え明るく活力あるまちづくりを目指すため、2020 年の「東京オリンピック・パラリンピック」の開催が控えていることから、事前キャンプ地の誘致に向けて、活動を強化していくことが必要です。

さらに、生涯学習の推進においては、学習成果の今後の活用方法について、自己や家族などへの活用意識は高いものの、他者や地域などに対する活用の関心が薄いことがうかがえるため、学習成果を地域へ還元する仕組みを整備するための支援を行う必要があります。